

報道機関各位

気候変動に対応したリンゴ有望品種の検討会を開催します

(いばらき農業アカデミー 令和5年度品目別先進農業技術講座として開催)



県北地域のリンゴ産地では、近年の気候変動、特に夏季の高温により、果実の着色不良や日持ち性の低下などが発生し、その影響が顕在化してきています。

このため、茨城県農業総合センター山間地帯特産指導所^{さんしゅう}では、夏季の高温下でも安定した品質が得られる有望な品種として「錦秋」を選定しました。

現在、さらなる有望品種の選定を進めており、この度、夏季の高温下での着色に優れる候補品種の特徴等を生産者や関係機関に紹介するため、検討会を開催します。また、本検討会では、生産性・品質向上が期待できる技術として、春先の低温下でも人工受粉に利用できる花粉や、果実の日持ち性を向上させる試験についても紹介し、生産者等との意見交換を行うこととしています。

つきましては、これから本格的な収穫シーズンを迎える本県リンゴ産地を支援する県の取組を広く知って頂くため、是非、取材して頂きたい、ご案内いたします。

【日時】 令和5年10月12日（木）13:30～16:00（受付開始 13:00）

【場所】 山間地帯特産指導所（大子町頃藤6690-1） 受付場所：2階会議室

【参集範囲】 県内各リンゴ生産組織、JA・市町・県等の関係機関 30名程度

【内容】 1. 気候変動に対応したリンゴ有望品種の検討（13:30～14:10）

- ・ 早生・中生品種、赤果肉品種について
- ・ 春先の低温下での人工授粉に利用可能な花粉の試験結果について

2. 日持ち性向上試験の果実の試食、有望品種の展示（14:10～14:50）

3. ほ場見学（14:50～16:00）

※当日は、ほ場での検討も行うことから、汚れてもよい履物と雨具持参でお越しください。

※小雨決行ですが、荒天の場合はほ場見学を中止することもあるので、予めご了承ください。



選定品種「錦秋」^{きんしゅう}

農研機構で開発された、良食味で高温下でも着色不良が起きにくい品種



赤果肉品種「ムーンルージュ」

果肉が赤くなる目新しさがあり、生食用・加工用途ともに高付加価値化が期待できる

【問合せ先】

茨城県農業総合センター山間地帯特産指導所

担当：檜山・助川

TEL：0295-74-0821

FAX：0295-74-0769

e-mail： o.sukegawa@pref.ibaraki.lg.jp